

令和6年度

三好市立芝生小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学びに向かい、伝え合い高め合う授業の実践
- 自分の考えを持ち、表現できる授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大岩教泰	校長: 武田真二郎 教頭: 大野修司 生徒指導主任: 谷脇洋平 研修主任: 平尾美和 道徳教育推進教師: 高崎まほら 体育主任: 濱口久弥 特別支援教育コーディネーター: 永山睦子

校長

武田 真二郎

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題にまじめに取り組む児童が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能の習得や定着が不十分である。	・該当学年の読み・書き・計算の知識・技能の8割程度を習得することができる。 ・主述の対応を理解して、文章を正確に読み取ることができる。	・週に1回程度、漢字や計算の小テストを行う。 ・1授業の中に、話す、聞く、書く活動の場を設定する。 ・各学年で読書の目標冊数を設定し、学期末には「多読賞」を発表するなど、読書活動を推進する。	朝活や授業の導入などでの小テストは引き続き行い、基礎的・基本的な知識の習得に取り組む。	・週に1回程度の小テストを継続して行い、基礎学力の定着が図れた。 ・話す、聞く、書く活動の場を授業の目的に合うように設定する必要がある。 ・読書に親しむことはできているが、本の内容を読み取るなど読書の質に課題がある。	学力の底上げをするべく、まずは児童の実態の把握に努め、各々に合った課題設定と個別指導で基礎的・基本的な知識・技能の習得や定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見を素直に発表する児童が多い。 ●友達と自分の意見を比べ、考えを深めることに課題がある。	・話し合い活動等を通して、課題解決する方法を考えることができる。 ・友達の意見を正しく理解し、自分の意見と同じところと違うところを考えることができる。	・ICTを活用して友達の意見に触れる機会を増やす。 ・友だちの発表を聞いたらず必ずハンドサインを出させる。 ・月に1回、「自主学習の日」を設定し、自ら課題解決に取り組む、自分の考えや知識を深めさせる。	読み取る力や自分の意見を構築する力をつけるために、考える時間を増やす。また、話し合い活動を充実させ、比較・関連付けて理解する力を育成する。	・口頭の発表だけでなく、ICTを活用した他の児童との考え方の比較を行うことができた。 ・ハンドサインの意思表示で児童の実態把握ができた。 ・月に1回「自主学習の日」を設定し、「学び方」を学ぶ機会となった。	単なる考えの比較に留まらず、そこからさらに考えを改めたりより確かなものにしたりすることができるよう、様々なツールの活用や場の設定の工夫に取り組む。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の好きな分野に対しては興味・関心が高く、意欲的に取り組むことができる。 ●苦手な分野に対して、消極的になるところに課題がある。	・既習事項を生かしながら、粘り強く課題に取り組むことができる。 ・自ら手を挙げて、思いや考えを発表することができる。	・課題を解くのに手掛かりとなる既習事項を明示する。 ・自分の思いや考えを出しやすいように雛形やキーワードを用意する。	小テストの問題数を減らし、プリントの内容も簡単にする。ことで、ポジティブな声かけを行い、自主的に課題に取り組めるようにする。	・すべての授業で既習事項を明示することは不十分であったが、教科書やノートなどを使って調べさせることはできた。 ・口頭、記述、タブレットへの入力など、子どもたちそれぞれに合った表現の仕方でも思いや考えを引き出すことができた。	児童が学び方を身に付けられるよう授業改善に引き続き取り組み、「自分の力でできた・できる」体験を増やし、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

